

事業所における自己評価総括表

○事業所名	江戸川区鹿本育成室			
○保護者等 評価実施期間	令和 6 年11月 5 日 ～ 令和 6 年11月29日			
○保護者等 評価有効回答数	【対象者数】	82名	【回答者数】	79名
○職員 評価実施期間	令和 6 年11月 5 日 ～ 令和 6 年11月29日			
○職員 評価有効回答数	【対象者数】	19名	【回答者数】	19名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月14日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや組織的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動に応じて部屋を変更できる	活動に応じた場所を使用できるように、遊戯室や園庭などの広い空間や明るさを調節できる部屋を使用して環境設定をしている。	療育室以外の場所の使用頻度を増やし、ダイナミックに体を動かす習慣をつけていく。他クラスと連携をとり、交流する機会を増やす。
2	保護者間の交流の機会を定期的に変作っている	年間を通して交流会や親睦会を計画している。分離の際に保護者が待機できる部屋を設けて、自然と交流できるように配慮している。	全ての保護者を対象にした、交流会を計画していく。担当する職員と保護者が、ざっくばらんに話ができる機会をつくっていく。
3	非常時の備えや訓練の実施を計画的に取り組んでいる	安全計画や非常災害訓練等年間で計画を立て実施している。分離の時間を利用して、保護者が避難場所を知る機会をつくっている。	安全計画は、掲示するとともに定期的に保護者に説明する機会をつくる保護者も参加できる機会を設けて、非常時の対応を知る機会とする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	きょうだい支援	きょうだい同士が交流できるような機会がもてなかった。育成室ができる支援を検討するため、保護者の思いを聞く機会を設けていく。	夏季休暇の時期などきょうだいに参加しやすい時期を選択し、ニーズを把握した上で行事を設定していく
2	翻訳アプリの活用	翻訳アプリを介したやりとりは、伝えたいことが伝わらないという課題が見えてきた。	日常会話から翻訳アプリを使用して職員が使いこなす必要がある。要点を絞って端的に伝える必要がある。
3	保護者のニーズに合った家族講座や講演会の開催	幼児期に必要な情報提供ができるように計画しているが、全ての保護者のニーズには寄り添えていない。時間帯が合わずに参加ができない家庭がある。	保護者のご意見を聞き取り、ニーズに合わせたテーマで企画していく。多くの方が参加できる時間帯での開催を検討していく。